

自分に引き寄せて考えよう

次の文章を読んで下記の問いに答えなさい。(阿部謹也『自分のなかに歴史をよむ』より)

私も幼いとき、季節が移り変わるということをはじめて知ったときの強い体験があります。四、五歳のころ、私は鎌倉の由比ガ浜に住んでいました。海の近くの家で、今と違って松林を通りぬけるとすぐに砂浜でした。夏になると私は毎日ビーチパラソルをもち、水着の上にタオルの上衣をひっかけて、サンダルで海に出かけ、一日中泳いだり、砂遊びをして過ごしていたのです。

ある日のことです。もう何日も海に行っていないことに突然気付いたのです。母に「どうして海へ行かないの」とせがんだのですが、海はもうおしまいなのよと行ってとりあってくれません。私は海がなくなるはずがないと思って、さんざん **Y** をこねたのです。すると縁側で新聞をよんでいた父が、「仕方がない、連れていっておやり」といつてくれたのです。

母親はブツブツ文句をいっていましたが、私はうきうきしていつものいでちで出かけていきました。ところが松林を過ぎてもどうもあたりの様子が違うのです。いつもなら森永や明治のフルーツパーラーの色とりどりの小屋や、ゲームをする人びとのざわめきが聞こえるのに、みように静かなのです。砂浜に出てみて、あっと思いました。つい先日までいっばい並んでいたよしず張りの小屋が一軒もなくなって、広い砂浜と海が広がっているだけで、泳いでいる人もほとんどいませんでした。

それだけではないのです。海から強い風がふきつけていて、砂がとばされて足にあたり、とても痛いのです。……私はこのときの砂の痛さで、季節というものが移り変わるのだということを体で知ったのだと思うのです。

Z 一見、なんでもなようなことのなかにいろいろ意味をよみとれることがあって、幼いころの体験はそれだけ深く体のなかに刻みこまれるのです。

1 Y に入る言葉をひらがな二字で答えなさい。

2 傍線部 **X** 「海はもうおしまいなのよ」とは何を表しているでしょう。

3 傍線部 **Z** 「一見、なんでもないようなことのなかにいろいろ意味をよみとれる」とありますが、あなた自身の幼いころの体験で、これと同じようになんでもない体験を一つ選び、そこにどのような意味がよみとれるのかを、六十字以上七十字以内で書きなさい。ただし、本文にある例以外のことがらを選ぶこと。

